

## 『高島平地域まちづくり説明会』(令和5年10月開催) での主なご質問と回答

### ●開催概要

	開催日時	開催場所	参加人数
第1回	令和5年10月5日(木)午後7時～午後8時30分	高島平区民館ホール	53名
第2回	令和5年10月7日(土)午前10時～午前11時30分	高島平区民館ホール	54名

※その他、区ホームページより説明会での説明内容を録画した音声付動画を視聴可能

### ●説明会内容

- 1 前回説明会の振り返り
- 2 交流核の形成に向けたアンケート結果
- 3 交流核プラン(中間のまとめ)
- 4 今後の予定について
- 5 板橋区とURが連携するソフト施策について

### ●主なご質問

#### Q1 説明資料中に「にぎわい」「交流」という記載があるが、どういうイメージか。

“人”中心のまちづくりに向けて、説明資料(16ページ)においては、区民の様々な活動を「住まう」「楽しむ」「買う」「憩う」「学ぶ」といった動詞で表現しています。交流核において、それらの活動が重なり合い、出会いが生まれる状態を「にぎわい」と定義し、魅力的な場所になることをめざしています。また、既存の価値観を大事にしつつも、新しい価値観を取り入れ、新しいにぎわいを生み出したいと考えています。

#### Q2 高島平のけやき通りは板橋十景に選ばれているものの、現状魅力的な空間とは思えない。板橋十景にふさわしい空間の形成をお願いしたい。

けやき通りは広い歩道を備えた区内でも貴重な空間であり、高島平を象徴する空間だと考えています。説明資料(19ページ)に記載した「ウォークブルなまちの実現」という方針の実現に向けて、けやき通りやプロムナードの空間が、高島平の象徴としてふさわしいものになるよう、検討していきます。

具体的には、「歩いて楽しい街並みの形成」として、「建物低層部のにぎわいの形成」「分かりやすく優れたデザインのしつらえ」等、道路空間だけでなく沿道の建物も含めた一体的な手法の検討について、説明資料(24ページ)に記載しています。

**Q3 「防災」・「防犯」という視点では、高島平地域だけでなく、近隣市との連携も不可欠ではないか。**

「防災」という視点では、説明資料(19ページ)において、「災害に強い安心・安全なまちの整備」を方針の一つとして掲げています。災害発生時だけでなく、事前に何ができるか、近隣市との連携も視野に入れながら、危機管理部とも密に連携して具体策を検討していきます。

また、安心・安全なまちに向けては、「防犯」という視点も重要です。「夜のプロムナードは暗くて怖い」という意見も多く頂きます。犯罪が起きづらいような空間形成についても、検討していきます。

**Q4 都市基盤の整備イメージにおいて、旧高七小北西側から高島通りへのアクセス性の向上を掲げている。旧高七小から高五小にかけての道は歩道も狭く、歩行者や自転車も多いことから交通事故が懸念される。**

高島平は他の地域に比べて、道路・公園・広場等の豊かな都市基盤を有していますが、人中心のウォークアブルなまちづくりに向けては、高島通りへのアクセス性向上も含めた交通処理等の改善は必要だと認識しています。今後、警察等ともしっかり協議し、安心・安全なまちを検討していきます。

**Q5 地区計画のスケジュール及び範囲を知りたい。重点地区全体が対象となるのか。また、高さ制限という観点では、周辺の団地にも影響を与えることから、関係者と一緒に検討する必要があるのではないか。**

今年度にプランの中で地域の将来像をまとめ、令和6年度に地区計画策定手続きを行う予定です。最終的に都市計画審議会に付議して決定します。

なお、地区計画の対象範囲は現在検討中です。各関係者とも協議を交えながら、適切な範囲で手続きを進めていきたいと考えています。また、まちづくりの考え方を整理したうえで、高さの誘導が必要であれば、検討の対象になると考えています。

**Q6 トヨタモビリティ東京(株)との協定締結の経緯と目的を知りたい。**

トヨタモビリティ東京(株)は、令和4年に交流核内に新店舗をオープンされ、令和5年3月に開催した移動やモビリティをテーマにした緑地活用イベントにも協賛いただきました。高島平一丁目から九丁目までの広い視点で、交流核エリアでの取組の効果を地域全体に波及させるためには、「移動」は重要な要素となるため、今回協定を締結することとなりました。なお、具体的な取組については、現在検討中です。

**Q7 再整備地区における都市機能の整備イメージとして、「生活の継続性に資する機能の配置」とあるが、具体的に何をイメージしているのか。**

再整備地区には、住宅機能や商業機能など、33街区にお住まいの方を含む、地域にお住まいの皆様の生活に必要な機能を配置する想定ですが、具体的な内容は現在検討中です。

また、地域イベントである高島平まつりやハーフマラソン等についても、「生活の継続性」の一部として、考慮していきます。

**Q8 再整備地区に建設を予定している建物の配置図・設計図等はいつ示されるのか。**

今年度末のプラン策定に向けては、建物の設計図ではありませんが、中間のまとめから素案に向けて検討を深掘りし、説明資料の図(20 ページ・22 ページ)等をさらに具体化していく流れとなります。再整備地区の具体的な内容については、詳細が決まり次第、公表いたします。

**Q9 団地の商店街が活性化するためには、店舗が面する方向も重要な要素であると考えている。建て替えの際は店舗をけやき通り沿いに配置する等、商業が活性化策を講じてもらいたい。**

UR 高島平団地には複数の商店街がありますが、時代の変化とともに店舗構成も変化しています。まち全体を改めて広い視点で捉え直して検討する必要があると考えています。けやき通りの景観形成においては、建物等のハードとともに、人々がその場所でどう過ごすかという賑わい形成の視点も踏まえながら検討していきます。

**Q10 33 街区の居住者に対する移転等の説明会が開かれない中で、駅前のまちづくりの説明が先行している現状に違和感を覚える。**

区・UR とともに、33 街区にお住まいの方々の居住の安定に配慮することを前提に検討を進めています。まずは区がまちづくりの大きな方向性について検討を進め、具体的な移転等の条件は、その後計画が定まった段階で UR より丁寧にご説明させていただく予定です。

また、UR から団地にお住まいの皆様へ適宜「団地再生だより」を配布し、検討状況をお知らせしています。UR の問合せ先も記載されていますので、ご不安な点はぜひそちらにお問い合わせください。

**Q11 パブリックコメントの時期はいつ頃か。また、パブリックコメントを実施する際は、子育て世帯等に情報が届くようにしてほしい。**

12月中旬に交流核形成まちづくりプラン(素案)のパブリックコメントを実施する予定です。子育て世帯を含めた幅広い人に情報が届くよう、パブリックコメントの周知方法は工夫していきます。